



▶ご注文先

FAX : 03-3264-5232

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 2-23 北井ビル

TEL 03-3264-5254

書店様ご注文欄

貴店名・帖合

ご注文日 年 月 日

ご担当者様

冊数計

様

冊

■ミステリ ≫ 評論

page 1/2

<p>本棚のスフィンクス ——錠破りのミステリ・エッセイ 直井明 著</p>	<p>四六判上製／384頁 定価(本体価格2600円+税) 2008年4月刊 ISBN978-4-8460-0729-4</p>	<p>アイリッシュの代表作『幻の女』はホントに傑作か? “ミステリ界の御意見番”が海外の名作に物申す。マクベインの追悼エッセイや、銃に関する連載コラム等も収録。</p>	<p>冊</p>
<p>新 海外ミステリ・ガイド 仁賀克雄 著</p>	<p>四六判並製／309頁 定価(本体価格1600円+税) 2008年10月刊 ISBN978-4-8460-0777-5</p>	<p>海外ミステリ入門書の決定版。MWA、CWA受賞作リストなど、充実した付録つき。</p>	<p>冊</p>
<p>エラリー・クイーン論 飯城勇三 著</p>	<p>四六判上製／400頁 定価(本体価格3000円+税) 2010年9月刊 ISBN978-4-8460-1057-7</p>	<p>読者への挑戦、トリック、ロジック、ダイニング・メッセージ、そして“後期クイーン問題”について論じた気鋭のクイーン論集にして本格ミステリ評論集。</p>	<p>冊</p>
<p>ヴィンテージ作家の軌跡 ——ミステリ小説グラフィティ 直井明 著</p>	<p>四六判上製／376頁 定価(本体価格2800円+税) 2011年8月刊 ISBN978-4-8460-1102-4</p>	<p>ヘミングウェイ「殺し屋」、フォークナー『サンクチュアリ』、アラン・ロブ＝グリエ『消しゴム』……。大物作家の作品をミステリ小説として読み解く。“ミステリ界の御意見番”が純文学からエルモア・レナード、エラリー・クイーンまでを自在に説いたエッセイ評論集。</p>	<p>冊</p>
<p>スパイ小説の背景 直井明 著</p>	<p>四六判上製／440頁 定価(本体価格2800円+税) 2011年9月刊 ISBN978-4-8460-1103-1</p>	<p>いかにして名作は生まれたのか。国際情勢や歴史的イベントなど、スパイ小説のウラ側を丹念に解き明かしたエッセイ評論集。</p>	<p>冊</p>
<p>極私的ミステリー年代記 上 ——1993～2002 北上次郎 著</p>	<p>四六判並製／480頁 定価(本体価格2600円+税) 2013年8月刊 ISBN978-4-8460-1265-6</p>	<p>海外ミステリーの読みどころ、教えます! 1993年から2012年までに『小説推理』へ連載されたミステリー時評を上下巻にまとめた書評集。上巻には1993年から2002年までを収録。</p>	<p>冊</p>
<p>極私的ミステリー年代記 下 ——2003～2012 北上次郎 著</p>	<p>四六判並製／480頁 定価(本体価格2600円+税) 2013年8月刊 ISBN978-4-8460-1266-3</p>	<p>このミステリーが俺的にすごい! 1993年から2012年までに『小説推理』へ連載されたミステリー時評を上下巻にまとめた書評集。下巻には2003年から2012年までを収録。</p>	<p>冊</p>
<p>エラリー・クイーンの騎士たち ——横溝正史から新本格作家まで 飯城勇三 著</p>	<p>四六判上製／338頁 定価(本体価格2400円+税) 2013年9月刊 ISBN978-4-8460-1267-0</p>	<p>横溝正史、鮎川哲也、松本清張、綾辻行人、有栖川有栖……。彼らはエラリー・クイーンをどう受容し、いかに発展させたのか。本格ミステリに真っ正面から挑んだ渾身の評論。</p>	<p>冊</p>
<p>本の窓から ——小森収ミステリ評論集 小森収 著</p>	<p>四六判上製／400頁 定価(本体価格2400円+税) 2015年8月刊 ISBN978-4-8460-1443-8</p>	<p>都筑道夫、植草甚一、瀬戸川猛資。先人の評論・研究を読み尽くした気鋭の評論家による21世紀のミステリ評論。横溝正史「獄門島」の読みどころとは? 「モルグ街の殺人」の本当の仕掛けとは? その答えは本書にある。</p>	<p>冊</p>
<p>悲しくてもユーモアを ——文芸人・乾信一郎の自伝的な評伝 天瀬裕泰 著</p>	<p>四六判上製／240頁 定価(本体価格2000円+税) 2015年10月刊 ISBN978-4-8460-1467-4</p>	<p>アメリカ帰りの孤独な少年はグレ学生から翻訳者へと成長し、やがて『新青年』編集長、ユーモア小説の名手としても活躍する。熊本県出身の才人・乾信一郎の足跡を追いつける著者が満を持して書きあげた渾身の評伝!</p>	<p>冊</p>

